

論点整理:

COVID-19を教材化する
教師の「ゲートキーピング」
に注目して

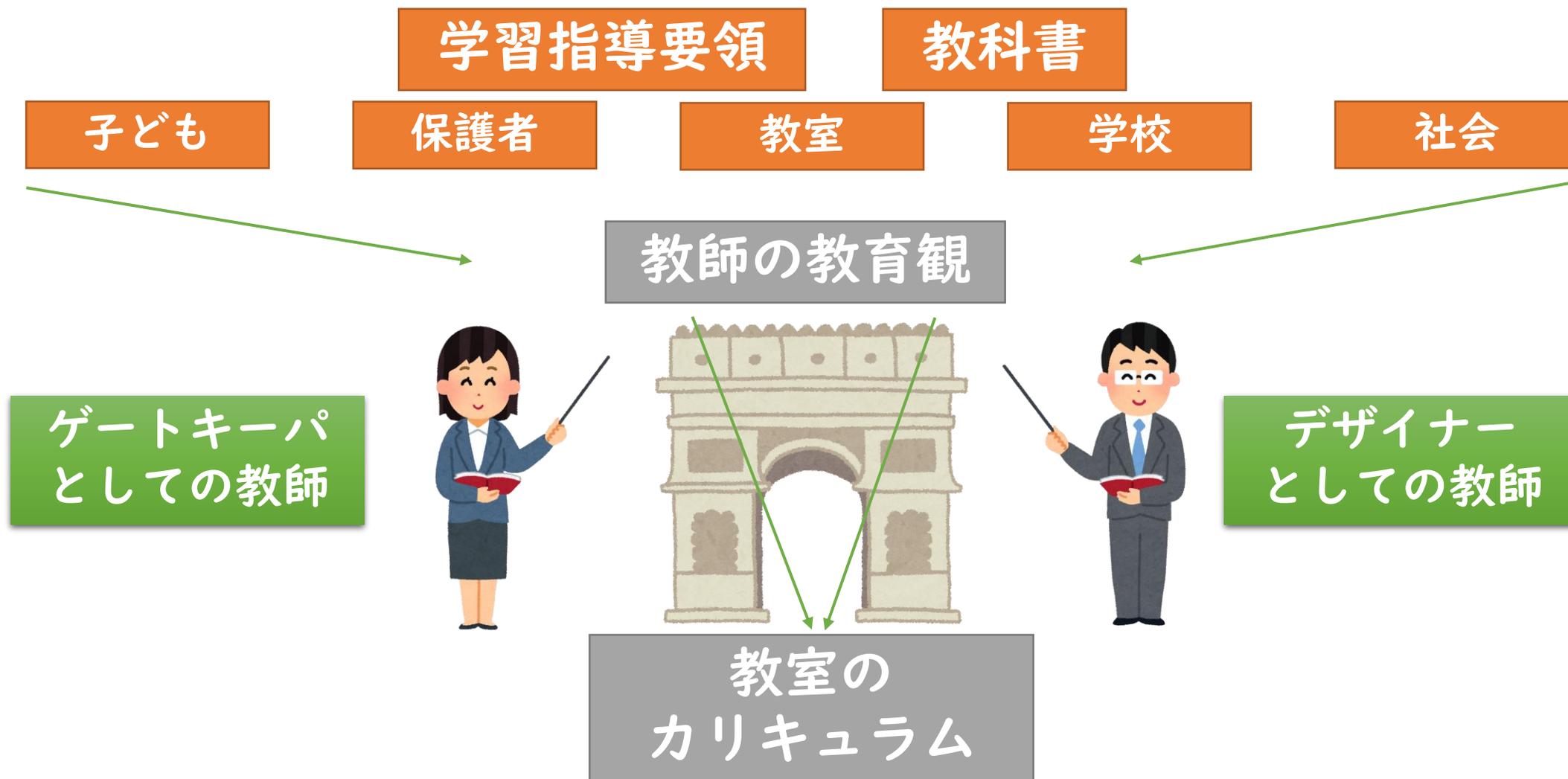
発表者: 金 鍾成 大坂 遊
(資料作成支援: 村田 一朗 高松 尚平)



このパートにおけるおもな問い

- ① 行壽先生と佐藤先生は、なぜCOVID-19を教材化したか。
- ② 行壽先生と佐藤先生は、COVID-19をどのように受け止め、「どのように」教材化したか。
- ③ COVID-19を教材化（授業化）した実践にはどのようなものがあるか。
- ④ COVID-19を教材化（授業化）する際、教師にはどのような判断が求められるか。

1. 教師の「ゲートキーピング」とは？ (Thornton, 2005)



1. 教師の「ゲートキーピング」とは？ (Thornton, 2005)

学習指導要領

教科書

(国家などによって) 権威付けられた
教育目標・教育内容・教育方法

権威付けられた教育目標・教育内容・教育方法
に対する「現在性」「文脈性」の要求

子ども

保護者

教室

学校

社会

2. 2人の先生方によるゲートキーピング

行壽先生の場合

- コロナを教材化する理由：「現在性」「文脈性」
- コロナの受け止め方：社会変化をもたらす要因（**知識**としてのコロナ）
- コロナを教材化する方法：過去の感染症による社会変化を「推移とつながり」視点から学習する「入口」と「出口」（**脇役**としてのコロナ）
- コロナ「**で**」考える授業：社会の「推移とつながり」を考えるための題材

2. 2人の先生方によるゲートキーピング

佐藤先生の場合

- コロナを教材化する理由:「現在性」「文脈性」
- コロナの受け止め方:学生の健康を脅かすもの(生活としてのコロナ)
- コロナを教材化する方法:いま,自分の健康を守ることを考えさせる題材(主役としてのコロナ)
- コロナ「を」考える授業:コロナのなかでどう生活するかを考える授業

3. 他のゲートキーピングの可能性を考える

COVID-19という事象・現象自体を題材として扱うか、別の現象や概念の探究にCOVID-19を間接的に結びつけて扱うか

実践事例：疫病の歴史と人類の英知を学び現在を考える

校種・学年	高等学校1～2年生，地理歴史科（日本史／世界史）
実践の意図	歴史における感染症流行に人類がいかに対応したか学ぶことを通して，現代の我々はCOVID-19をはじめとする感染症の流行にどのように向き合うべきかを考える
展開	<p>【日本史の場合】日本における感染症の流行</p> <ul style="list-style-type: none">① 絵画や木簡といった資料から前近代における感染症に対する畏怖の認識があったこと，また除災しようとしていたことを読み取る② 近代におけるコレラの流行の際，消毒薬や清掃等といった対応があったことを読み取る③ COVID-19に対する中国と日本の初期対応の比較し，違いがあることを理解する④ 過去においても現在においても，消毒・隔離等の対策が共通して必要なことを確認する

COVID-19そのものを扱う実践はほぼないが，派生する事象を扱う実践は多い？
→評価が定まっていない題材，現在進行系の題材を扱うことの難しさ

3. 他のゲートキーピングの可能性を考える

子どもたちをCOVID-19の直接的な影響を受ける「当事者」として扱うか, 少し距離を置いて社会的な問題として扱うか

実践事例：9月入学制度はあり？なし？

校種・学年	中学校3年生, 社会科 (公民的分野)
実践の意図	COVID-19による社会の変化 (9月入学制度に関する議論, 政府によるマスク配布, 特別給付金の給付等) を子どもの生活に直接関わる問題として捉え, 公民的分野の政治学習の部分に位置付ける
展開	<ul style="list-style-type: none">① 9月入学制度とは何か? メリット・デメリットは何か? 他国ではどうしているのか?② なぜ, いま日本では9月入学制度が大きな問題となっているのか?③ クラスでこの問題についてテレビ番組風に討論してみよう。あなたがニュースのコメンテーターだとしたら, 9月入学制度についてどのようなコメントを残すか?④ 当事者であるあなたの「声」を政治に反映するにはどのような方法があるのか?

当事者として向き合うことが心理的な負担を増加させるのか, 軽減させるのか?
→ 対峙させた際の子どもの受け止め方がわからない題材を扱うことの難しさ

3. 他のゲートキーピングの可能性を考える

COVID-19によって受ける影響や変わる生活を, 子ども自身の生き方や在り方(どう○○するか)と結びつけるか否か

実践事例：新しい生活様式の夏休みをどう過ごす？

校種・学年	小学校6年生, 英語科
実践の意図	<ul style="list-style-type: none">子どもの生活に影響を与えるものとしてCOVID-19をとらえる過去形の表現について理解する今年の夏休みに行ったことを振り返り, 今年の夏休みの計画を立て英語で表現する
展開	<ol style="list-style-type: none">CDから聞き取った内容について, その内容と合うよう登場人物や絵を線で結んでいく今年の夏休みに行ったことについて, 先生と話したり, ペアと会話したりしながら表現する今年の夏休みに行ったことを踏まえ, “Where do you want to go?” の表現を用いて, 今年の夏休みの行動計画を英語で表現する

「どうすべき／どうしたい」の判断には, 子どもの学校外の生活や家庭環境が影響する
→個々人で影響が異なる題材, 生活実態にまで踏み込む題材を扱うことの難しさ

3. 他のゲートキーピングの可能性を考える

COVID-19によって変わる教育環境やカリキュラムの変更を受け入れて対応する（変容）か，抗って対応する（代替）か

実践事例：ソーシャルディスタンスボディパ

校種・学年	小学校3年生以上，音楽科
実践の意図	<ul style="list-style-type: none">・ 感染源であり，歌を歌うことを阻むものとしてCOVID-19をとらえる・ 友達と気持ちを合わせてボディパーカッションという音楽表現を行うことで，音楽活動の楽しさを体験し，音楽を愛好する心情を育む・ 体一つでできる，場所を選ばない，どんな子でも取り組める，人数に関係なく接触せずに楽しめる，一体感を感じられるなどの新たな実践の在り方を模索する
展開	<ol style="list-style-type: none">① 音楽室いっぱいに広がって整列し，パートごと（全部で4パート）に分かれて，自分のパートのパターンを覚える② パートごとにアドリブを考え，パートごとに練習する③ みんなで合わせて演奏する

COVID-19は授業のあり方，学びのあり方，教科の内容の取り扱いにも変化を迫る
→教科指導の目標を見失わずに，授業形態やコンテンツを変更することの難しさ

3. 他のゲートキーピングの可能性を考える

COVID-19を教材化（授業化）する際の判断や論点

- ① **直接派 vs 間接派** COVID-19という事象自体を教育内容や教育目標とするべきか否か
実践事例①:「疫病の歴史と人類の英知を学び現在を考える」
- ② **当事者派 vs 非当事者派** COVID-19の影響を受ける当事者として向き合うべきか否か
実践事例②:「9月入学制度はあり?なし?」
- ③ **自分ごと派 vs 社会ごと派** COVID-19の問題を自分の生き方・在り方と直結させるか否か
実践事例③:「新しい生活様式の夏休みをどう過ごす?」
- ④ **変容派 vs 代替派** これまでの教育／学習／カリキュラムのあり方を維持すべきか否か
実践事例④:「ソーシャルディスタンスボディパ」

佐藤実践は青寄り? 行壽実践はオレンジ寄り?

- 星笑美子.(2020). 新しい生活様式の夏休みをどう過ごす?. *新英語教育 No.612*. 新英語教育研究会, 26-27.
- 柴田康弘.(2020).ピンチをチャンスに。主権者たる子どもの「ガチ(切実)」を引き出せ!. *教育科学 社会科教育 No737*. 明治図書, 82-85.
- 竹田和夫.(2020). 疫病の歴史と人類の英知を学び現在を考える. *教育科学 社会科教育 No736*. 明治図書, 90-93.
- Thornton, S. J. (2005). *Teaching social studies that matters: Curriculum for active learning*. Teachers College Press. (訳書:Thornton, S. J., 渡部竜也, 山田秀和, 田中伸, & 堀田諭. (2012). *教師のゲートキーピングー主体的な学習者を生む社会科カリキュラムに向けてー*.春風社.)
- 山田俊之.(2020).ソーシャルディスタンスボディパ. *教育音楽 小学校版 7月号*. 音楽之友社, 36-43.

実践事例は、各教科の実践が掲載されている教育系商業雑誌（2020年4月～9月号）から収集し、発表の趣旨にあわせて一部改変して紹介しました。作業にあたってくださった村田一朗さん、高松尚平さんに感謝申し上げます。